迪を恵め. 巍然四寮に立籠もり 噫妖雲は狂へども の歌高誦ふかな し若人等

爛漫春を 欺けど 三年の契浅からず

銀觴口辺にうつろへば 名残の春を惜むべし

の群は去り行きて

夏草深き丘上になっくさふかをかのへ 月三更の影冴ゆるっきさんこう かげは 角笛遠くこだましぬっのぶぇとほ

Ŧi.

若き男の子の寮歌消ゆる 今玲瓏の谿谷に

不¾ 壊¾ の

生命と輝きし

緑葉漸く紅葉して
みどりょうや もみぢ

窓に佇む多感の遊子橇の音孤弦の月を呼ぶ 今宵何をか思ふらんこよいなに 颯々の風音寒く

篝火焚きて我は今かがりびた われ いま 記念の祭終るなり 月影淡き楡の陵 かに宵を誦はなん

> 野 \prod 村 辰 (
> 夫君 真 君 作 作歌

Ж